

15: 05 休憩

15: 20 講演「学修ポートフォリオシステム導入・活用等の参考指針」

講師：岩井 洋氏（本協会大学情報システム研究委員会委員長、  
帝塚山大学教授）

学生自身による学修到達度の確認と学修課題の発見、学生の学修行動を把握し、授業の点検・評価及び教育プログラム効果を検証するツールとして、学修ポートフォリオシステムを導入・活用する上での留意点、授業価値を振り返るティーチングポートフォリオの導入、eポートフォリオシステム構築に伴う最小限必要な機能と利用上の留意点と導入形態について、大学の事例を参考にガイドラインを紹介します。

16:20 関連情報の提供

「平成28年度私立大学教員の授業改善白書」

「平成28年度教育への情報化投資額の実態」と「情報関係補助金の要望」

「サイバー攻撃に備えるための情報セキュリティ対策強化のための取り組みと大学の対応状況」

17:00 閉会

## (2) 実施結果

55大学1短期大学から89名が参加した。参加者4割からのアンケート結果を報告する。

- ① 来年度に向けたテーマとしては、一つは教学IR、経営IRの取り組み事例、二つは教育の質保証に向けた取り組みと学修成果の可視化、教育へのAI・ビッグデータの活用、三つは教育評価と教員評価、正課と正課外の教育成果の可視化、四つはポートフォリオとLMS、ティーチングポートフォリオ、五つはクラウドの活用、六つはSNSを用いた広報戦略、七つは広報、学修・履修支援におけるAIの活用事例、八つはガバナンス強化に向けた取り組み、九つは情報部門の組織作り、情報化投資の最適化、十はグローバル化に対する海外大学との交流事例、地域との共創事例、十一は情報セキュリティ対策強化の先進的取り組み、教職員に対する情報リテラシー教育、グーグル等外部サービスの有効活用の事例、BYOD情報携帯端末への対応等であった。
- ② 本協会全体の活動への要望としては、無料セミナー・情報交換会の実施、大学機関における最新トピックスを情報共有できる仕組の構築、関西での事業実施、本会議参加者の問題意識を共有化するためにグループワークによる運営、会員のメリットやマネジメントの強化などの意見があった。

## 〔他3〕研究会等のビデオ・オンデマンド配信

大学教員のファカルティ・ディベロップメント、職員のスタッフ・ディベロップメントの貴重な資料として、教育方法及び教材開発、教育・学修支援の情報通信技術活用などの講演、事例紹介の著作権処理済みコンテンツをデジタルアーカイブしてデータベース化し、希望する会員に有料でオンデマンド配信している。

コンテンツは、27年度158件、28年度127件、29年度129件の合計414件となっている。

平成29年度分の配信分担金は、正会員の規模に応じて32,400円から54,000円、賛助会員は一律43,200円となっているが、2年目は10分の1（28年度分）、3年目のコンテンツ（27年度分）はすべて無料としている。利用人数は無制限で参加申し込みはWebサイトで行っている。